

# 中島 榮一（海15期）氏の講話

## 「私の学んだこと」

講演のテーマ「私の学んだこと」

学生時代を思い出しつつ、いくつか感じたことを話したいと思っています。

これから皆さんが学んでいく上で、何らかの参考になれば幸いです。

### 自己紹介

最初に簡単に自己紹介。

### 昨今の情勢

平成16年の夏に自衛艦隊司令官を拝命し18年3月まで勤務しましたが、その間、まさに昨今の安全保障環境、あるいは軍事力に求められる行動の多様化を表すような事案が起きました。

ひとつは、中国潜水艦による我が国領海侵犯です。次は、インドネシア、スマトラ沖地震による大津波による救助活動です。自衛隊、米海軍をはじめ数力国が活動を行いました。最後に、ロシア海軍潜航艇の救助活動です。

私が入校した頃は、東西冷戦のさ中であつたわけですが、今ではこのように、純軍事的行動だけでなく、災害救助や人道支援、救難活動にまで求められ、かつそれが多国間共同の形で実施することが多くなってきているように、大きく様変わりしてきたといえます。国家防衛はもちろん、いろんな分野で、自衛隊の活動が注目され、そして期待されている時代になってきました。

言葉を換えれば、自衛隊に対する期待の高まりとともに、自衛隊や自衛官を見る目が厳しくなってきたといえます。

### 防衛大学校入校の動機

確たる目的をもって入校したわけではありません。

防大は幹部自衛官を養成する学校だとは知っていましたが、自衛隊について深く知っていたわけではありません。不安もありましたが、仲間との生活、等で少しずつかしくなっていたということになるかと思えます。

唯一いえること、将来国防という任務に就く幹部自衛官への道を選択したということです。そこで学びながら、何を考えるか、どう行動するかが大事。

### 幹部自衛官を育てる学校、リーダーシップを教育

前学校長は、優秀な人材を育てる、そのためには柔軟な思考力・責任感・誠実といわれています。

現学校長は、「日本の国防に関心のある人、組織の上に立ってリーダーとなることに関心のある人、情熱と積極性をもつ人」といっておられますように、本校での教育の基盤は、まさにリーダーシップの教育にあるといえます。

この4年間は、将来のための基礎の基礎といえる教育を受ける期間であり、将来指揮官として部下を率い、任務を遂行するに必要な資質の修得、リーダーシップ教育を受けるということです。

## 想像的発想を

学びつつ、考え、行動することが大事であろうと思います。

現役の時に、よく部下に行ったことは、「できません」という否定的な発想でなく、「実現させるためには、どうしなければならないか」という創造的な発想をもちなさい、という指導をしました。

これは、われを取り巻く情勢というものはわれの予測通りにいかないのが常です。それでも指揮官としては、それに対応せざるを得ない、事態を何とか打破しなければならないのです。

実行できませんというような否定的な発想では、勝負に負けます。われわれは勝利しなければ、ならないのです。

好ましい状態を実現するために何が必要か、何をすべきか、という創造的な発想を実行して頂きたい。

## 米海軍兵学校の話

3月下旬にアメリカ海軍士官学校を訪問する機会がありました。

ワシントンDCから車で約1時間のところにアナポリスというこじんまりしたきれいな街の中にあります。学生数約4000名ですから、1学年約1000名、しかも海軍士官候補生ですから、数的には防衛大学校とは比較になりませんが、教育の質は、何ら変わるものはありません。

ここの教育の指針は、

To develop midshipmen morally, mentally, and physically and to imbue them with the highest ideals of duty, honor and loyalty in order to provide graduates who are dedicated to a career of naval service and have potential for future development in mind and character to assume the highest responsibilities of command, citizenship and government

まさに組織のリーダーを育てる教育であり、防衛大学校と同じく、自主自立を基本に実施されています。

海上自衛隊に、というか旧軍からいろいろと使われている言葉があります。

海上自衛隊でよく使われる言葉として、

「やって見せ、言って聞かせて、させてみて、ほめてやらねば、人は動かじ」とは山本五十六の有名な教訓

「5分前の精神」、「スマートで目先がきいて几帳面、負けじ魂これぞ船乗り」、「常在戦場」

「Always On The Deck」

このような言葉は今も通じることだと思いますが、その中から、

“三惚れ”

「仕事にほれよ」「土地にほれよ」「人にほれよ」という3つをいいます。「人にほれよ」ではなく、「家族にほれよ」ともいいますが、

「仕事にほれよ」とは、自分が就いた職業、選んだ職業を好きになりなさい、自分の仕事にほれなさい、ということです。ほれ抜いてしまえば、人から大変な仕事ですね、といわれても、辛いけどやりがいがあります、と言えるようになるでしょう。それはまた、自分の能力を大きく向上させることにもなると思います。

「**土地にほれよ**」とは、自分の勤務地や暮らす所を好きになりなさいということです。永住の地であっても一時の勤務先であっても、好きになれば、いいことがたくさんあります。今の貴方方では、ここ横須賀がそれです。

「**人にほれよ**」ということは、自分の周りの人を好きになりなさい、ということです。

家族、友人はもちろん、我々にとって大事なことは、部下に惚れよ、ということです。

自衛官たるもの、最終的には生死を賭して部下とともに戦わねばならない、その部下を大事に、愛おしいと思いなさい、ということです。

次に、**ここでの仲間是一生、仲間になる。**

防衛大学校に入校したことは、一生涯の友を得たということでもあります。「同期の桜」という歌、いわゆる軍歌がありますが、まさにあの歌詞のような結びつきが得られる、ということでもあります。まだピンと来ないかもしれませんが、これから4年間、同じ釜の飯を食って生活し、切磋琢磨していくわけですが、このような生活が、上級生を敬い、下級生の面倒をみて、そして同期の団結が一段と強化されます。

これからの幹部自衛官としての勤務はもとより、自衛隊退職後もこの仲間意識は継続します。

**国際的視野**をもつことです。

すでにご承知のように、いろんなことがグローバル化している現状においては、国際的な動きに注目していく必要があります。昨今の海上自衛隊でも、多国間の共同訓練や国際会議を開催していますが、この10年間で急速に拡大充実してきています。

若いころは、米海軍との共同訓練でよかったのが、今では、ロシア海軍との共同訓練、指揮官の相互訪問、また近いうちに海上自衛隊艦艇の中国訪問が実現するでしょう。

このような動きは、相互の信頼醸成の一環でもあり、またプレゼンスという意味も持っています。一国の動きは他国に作用し、国際的な流れとなる。そのような流れを読み取る力を養うことである。

機会があれば、あるいは機会を見つけて、見聞を広めるのはいいことだと思います。

海上自衛隊では、それがゆえに、旧海軍の頃から遠洋練習航海を実施し、視野を広げる機会を設定しています。諸外国の文化に触れる、相互理解に努める、日本を自分を見つめる、といった成果を期待しています。

このように、自衛隊の業務も他国との関係が深くなってきました。これらに適切に対応するためには、国際的な視野を持つ必要があります。

いろいろと話をさせていただきましたが、何かの足しになれば幸いです。

皆様のご活躍を期待しています。頑張ってください。

ありがとうございました。